

群 教 セ	G02 - 02
	平15.216集

マルチメディア資料集 「赤城村の文化財」の作成

特別研修員 諏訪 晶 (赤城村立刀川小学校)

《研究の概要》

本研究では、本格的な歴史学習に初めて取り組む児童が、興味・関心を持って取り組んでいけるように、また、より現実的に歴史を感じ取れるように、身近な地域文化財の静止画や動画を取り入れた資料集を作成した。この資料集では、村内の学校区ごと、及び時代ごとに文化財を調べられるようにし、また、文化財ごとの位置を地図に記すことにより、興味を持った文化財を訪れてみる際の手助けとなるようにした。

【キーワード：社会 - 小 歴史 文化財 地域学習 マルチメディア】

主題設定の理由

小学校6年生になって、社会科に初めて歴史学習が入ってくる。3・4年生で人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人などの歴史的分野に関連した教材もあるが、本格的な学習は初めてである。この歴史学習の目標として、「先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深めようとするとともに、歴史や伝統を大切に、国を愛する心情を育てるようにする」とある。中学校で行われる通史的な歴史学習につなげるためにも、歴史というものに興味・関心を持たせることを1つの大きな目標としている。

初めて歴史を学習する児童にとって、時代をさかのぼって物事を考えるということは、極めて抽象的なことであるため、取り組みにくいものと考えられる。自分が今、どんな時代のどんなことを学習しているのか、漠然としていて分かっていないことも少なくない。特に、歴史学習の初期に歴史というものに興味を持てなかった児童は、調べ学習などを行っても人物や事象を書き写し覚えるのみで、自分なりの考えや疑問などを持ってないことが多い。そして、最終的に、歴史学習は暗記すればよいものにとらわれがちになるのではないかという疑念も生まれる。このような点から、少しでも歴史学習への興味・関心を抱かせ、歴史学習への意欲を高めさせる工夫が必要である。

歴史学習への興味・関心を高めるための手だてとして、身近にある文化財や遺跡、遺物などを実際に見たり、直接触れたりする方法がある。これは抽象的な歴史的な事象をできる限り現実的なものにし、歴史に興味を持たせることに有効である。本校近くの通学路沿いにある道祖神を見学し、享保年間に造られたものだと知り驚いている児童が多くいた。それは、いつも何気なく見ていたものが、200年以上も昔に造られたものだと知ったからである。それらの児童の中には、後日、自宅近くの道祖神をデジタルカメラで撮影し、読めないながらも裏に刻まれた文字をメモしてくるなど大いに興味を持った児童もいた。そして、なぜこのようなものが造られたのか、なぜここに置かれているのかなどの疑問も生じていた。しかし、限られた授業時間の中で、社会科見学や体験学習を行うことは限られてくる。また、児童は村内の、学校区はどこに文化財があるのか、どのようなものが文化財なのかなどは、ほとんど知らない状況である。本校隣にある城跡でさえ、「そういえば何か看板のようなものがあつた」という程度である。

そこで、本村に現存する、または発掘調査された文化財などを自分で調べながら、学習できるマルチメディア資料集を作成すれば、歴史学習全体の導入や各単元導入部などで効果的に使

用することができる。それは、これから学習する時代や事象について身近な文化財から入ること、興味を抱かせるとともに、より現実的に歴史を感じ取れると考えられるからである。さらに、マルチメディア資料集の特性を生かし、従来の書籍形式では扱えない動画などを取り入れることにより、児童は一層歴史学習に楽しみを持って入っていけるであろう。また、身近にある文化財ということで、興味を持った児童が休日などに自ら見学に行く際の手助けになるだろうと考え、本主題を設定した。

研究のねらい

本村に残る文化財資料を収集し、デジタル化して、児童が歴史学習に興味・関心を抱く資料集を作成するとともに、その資料集を授業で活用し有効性を検証する。

研究の見通し

デジタルカメラやデジタルビデオ等で、本村に残る文化財を素材化したものを、時代ごと、地区ごとに調べられるようにし、そこに静止画や動画、その説明などを効果的に取り入れたり、地図上でその所在地を明確にしたりすれば、児童が歴史学習に対して興味・関心を抱き、自発的な調べ学習に役立つ資料集が作成できるであろう。

研究の内容

1 マルチメディア資料集「赤城村の文化財」の概要

(1) 基本的な考え方

小学校社会科における歴史学習は、歴史事象をピックアップして取り上げる（通史的に扱わない）、また全国的な事象を取り上げることなどから、歴史そのものを身近に感じ取れず、暗記科目ととられがちである。歴史学習に興味・関心を抱かせるとい、社会科第6学年の目標達成のため、身近な地域の文化財に触れさせるといことは大変有効なことである。さらに限られた授業時間の中で、見学や体験学習が随時行えないことなどから、地域文化財に視点をあてたマルチメディア資料集は効果的であろう。

マルチメディア資料集の作成にあたっては以下の点に留意する。

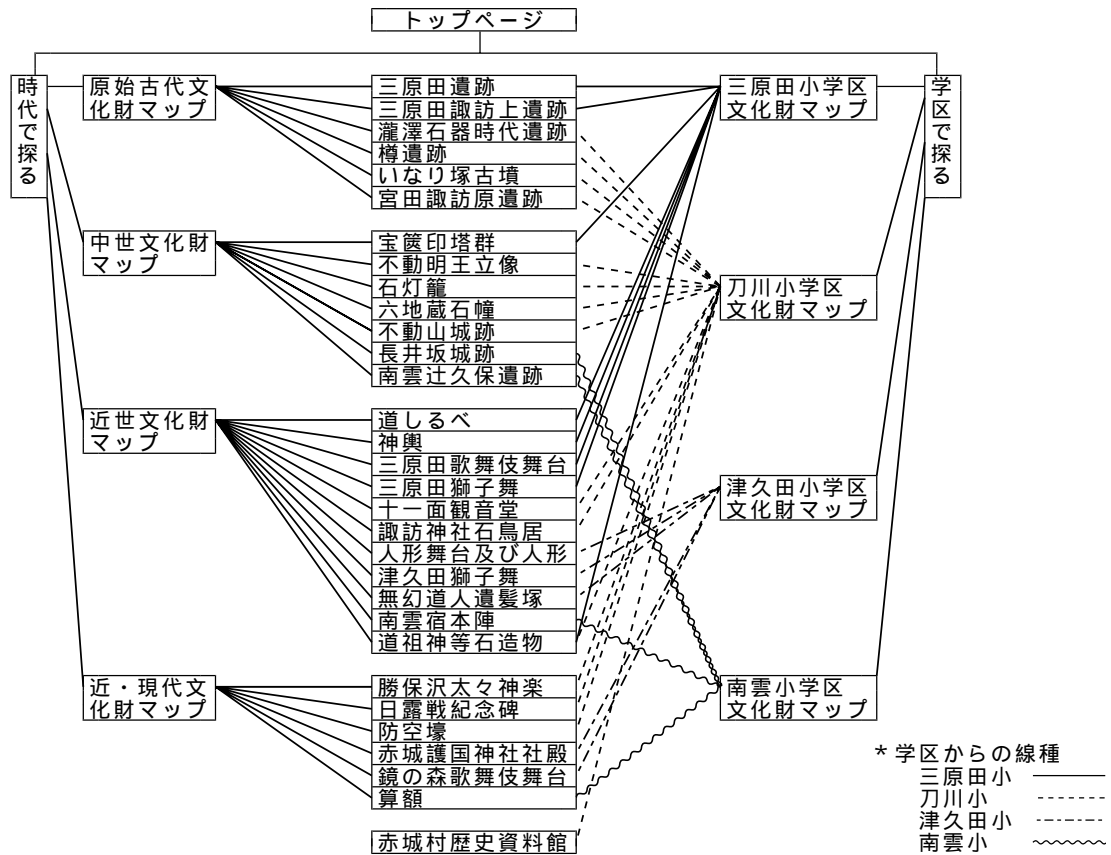
本村に残る文化財を、デジタルカメラやデジタルビデオで収集、資料化し、歴史学習へ興味・関心を抱く Web 形式の資料集とする。写真画像には、実際に見てみないとわかりにくいものなどもあえて取り入れ、見学への意欲を高める。また、歌舞伎や人形芝居など動きのあるもの、その時期でしか見られないものなどは動画を取り入れるなど工夫する。さらに、関連する県内の文化財などもトピックス的に取り入れる。なお、資料収集にあたっては、自分で撮影等を行ったものの他に、赤城村教育委員会、群馬県埋蔵文化財調査センター、太田市教育委員会、上三原田歌舞伎舞台操作伝承委員会より資料の提供及びご教示を頂いた。

児童が調べる際、時代から探っていく、学区から探っていくという二通りの方法でアプローチできるようにする。学校区域というのは、授業時間内や放課後、休日を利用して短時間で見学に行こうという際の目安となるであろうし、時代ごとは授業進行に合わせて、その時代の地域の文化財を調べるときの目安となるであろう。

児童が興味を持った文化財を、休日など授業時間以外でも実際に見学に行けるように、地図上に文化財の位置を示し、また児童にも分かる目印なども示して見学の助けとする。また、見学する際の注意事項なども併記する。

教科書などに出てくる歴史的事象や学習している時代と村内の文化財の関係が分かるように、年表や文章等で説明を加え、理解が深まるようにする。

(2) マルチメディア資料集「赤城村の文化財」の構成



2 マルチメディア資料集「赤城村の文化財」の内容

(1) トップページ

トップページに学校地区と時代の項目を設けた(図1)。学校地区は、村内にある三原田小、刀川小、津久田小、南雲小の4地区。時代は原始・古代(縄文時代から平安時代)、中世(鎌倉時代から安土桃山時代)、近世(江戸時代)、近・現代(明治以降)の4区分とした。このように地区、時代の2つの方法からアプローチできるようにすることにより、自分の学校区の文化財を調べてみよう、実際に見学に行ってみようとした場合や、時代別の村内の文化財を調べてみようとした場合などに対応しやすいようにした。

(2) 学区、時代で探る

トップページから選んだ学校区や時代に進むと、文化財マップが現れる。学校区に進んだ場合はその校区の文化財マップ、時代に進んだ場合は村内のその時代の文化財マップとなる。図2は原始・古代の文化財マップである。校区のマップを見た場合、校区内にある文化財が、学校からどの方角にあるか、だいたい位置や距離が予測できる。時代ごとのマップの場合は、その時代の文化財がどのくらいあるのか、



図1 トップページ

どこにあるのかなどが把握できる。このマップ上で、自分が選んだ文化財名をクリックするとその文化財を紹介しているページを見ることができる。学校区から調べるか、時代で調べるかは、そのときの授業のすすめ方で変化をつけられるであろう。

(3) 文化財紹介のページ

それぞれの文化財の紹介のページは、学校区から入っても時代から入っても同じ内容である。文化財の紹介に関しては、簡単な文章と写真、いくつかのものには動画も入ってくる。基本的には、文化財や歴史に興味を持てるような、実際に自分で見てみたいと感じられるようなページに仕上げたいと考えた。各文化財の紹介に1ページ、周辺図に1ページが基本形であるが、多々紹介すべきものがあるときは(リンクさせて)2ページ以上となる場合もある。3つの紹介ページを例に説明したい。

ア 三原田遺跡のページ

図3は三原田遺跡のページである。遺跡全体の写真を載せ、何だろうと考えさせる。これは縄文時代の住居跡群で、資料集として、解説ももちろん入れてあるが、おそらくそれでも何だか分かりづらいと考えられる。そこで、住居跡群と知らせた上で、一軒分の住居跡も載せる。何となくイメージがつかめる児童もいれば、これでどんな家なのだろうかと思う児童もいるだろう。このどうなのだろうかという疑問や考えを持たせられるようなページがねらいの一つである。写真をクリックすると図4の復元住居のページにリンクできる。復元住居の写真は、骨組みだけのもの、内部からのものなどを載せることにより、わかりやすくした。また、これらの写真はサムネイル画像になっている。さらに、各文化財紹介のページには、地図というボタンが付いていてそこをクリックすると文化財周辺の地図が表示される。図5が三原田遺跡のページからリンクしたもので、実際に遺跡を見に行こうという際の手助けとしている。また、見学に際しての注意事項なども併記している。

三原田遺跡の場合は、動画も取り入れている。三原田遺跡からは三原田式土器と命名さ



図2 原始・古代の文化財マップ



図3 三原田遺跡のページ



図4 三原田遺跡のページ2

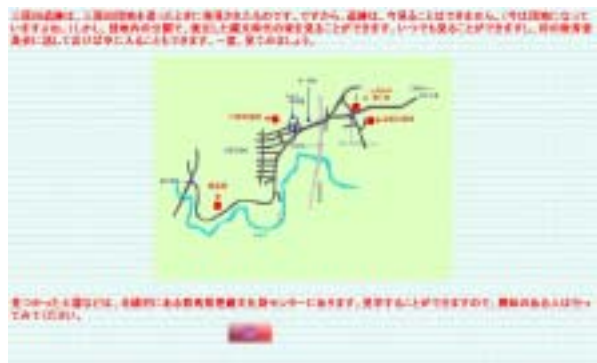


図5 三原田遺跡周辺図

れた土器が出土している。図4にその土器の写真を載せているが、写真では平面的になってしまふ。そこで、写真をクリックすると動画へとリンクし、土器を全景や部分アップで一回り撮影したビデオが見られるようにした(図6)。縄文中期の勢いのある文様を一方向からだけでなく、360度見回すことにより、土器を楽しんでもらおうと考えた。

三原田遺跡の場合は、資料を紹介し見てもらうことで文化財や歴史に興味を持ってもらう、実際に見てみよう、行ってみようという気持ちにさせようと考え、上記のようにページを作成した。なお、各時代のトップページの題名(の文化財)をクリックすると、その時代の年表(図7)を見ることができる。日本の歴史と赤城村の歴史が対応するようになっており、紹介されている文化財と教科書などに出てくる歴史事項の時代関係や関連を知る手掛かりとなる。



図6 土器の動画(アップ映像)

図7 原始・古代年表

イ 宝篋印塔群のページ

宝篋印塔群という文化財紹介のページでは、あえて説明を細かくしないことで、行ってみよう、調べてみようという気持ちを持たせようと考えた。図8及び図9は紹介ページの一部(サムネイル画像)であるが、文章説明では、何か模様があるね、年号が書いてあるものもあるよ、としか記していない。ヒントとしては説明版の写真(サムネイル画像)に種子(梵字)、室町時代(応永、永享・・・)と出てくるのみである。このようなものから調べる気持ちが育てられないものかと考え、あえて説明を加えなかった。



図8 宝篋印塔梵字



図9 宝篋印塔年号

ウ 三原田諏訪上遺跡のページ

三原田諏訪上遺跡の紹介ページからは、赤城村内の文化財ではない国分寺跡を紹介するページへのリンクを作成した(図10)。三原田諏訪上遺跡は古代の寺院跡と考えられる遺跡で、多数の瓦塔破片が出土した。赤城村と仏教の関係を学習するのによい教材となる。また、仏教の広まり、仏教の力を借りた政治などの学習で、必ず扱われる国分寺をリンクさせることには意義があると考えた。仏教伝来が、遠い畿内だけのこ



図10 国分寺跡のページ

とでなく、群馬県にも、そして赤城村にも早々に伝来している事実が、児童に歴史を身近なものに感じさせるであろう。また、本村出土の瓦塔は復元されていないので、子どもたちは破片を見てもイメージがつかめないことから、国分寺跡ガイダンス施設にある七重塔の模型や前橋で出土、復元した瓦塔をみせることでより深く学習できるであろう。

以上、3つの文化財紹介ページを例に挙げた。このほかのページに関しても、この3例のパターンを基準とし、各ページの文化財に合わせて、興味深くなるよう考えた。なお、三原田遺跡以外で動画を使うものとして、勝保沢太々神楽、津久田人形芝居、三原田歌舞伎、溝呂木の神輿、太田天神山古墳、七輿山古墳がある。また、国分寺跡以外で村外の文化財を紹介するものとして、太田天神山古墳などの数基の古墳がある。

3 本資料集の活用例

(1) 歴史学習導入時での活用例

地域にある文化財を通し、歴史を学ぶための手掛かりが身近に、日常的にあることに気付かせ、歴史への興味・関心を持たせたい。

授業展開(単元：見つけたよ！歴史との出会い・全5時間)

過程	時間	主な学習活動	学習への指導及び支援
導入	1	<p>本資料集を見ながら、歴史学習に対する調べ方、視点のあて方、考え方などを学習する。</p> <p>各自が調べてみたい文化財を、本資料集から見つける。</p>	<p>本資料集の利用法を説明しながら、いつ頃のものか、どのような点を見ていくか、どうして造られたのか、どこにあるのかなどの言葉を投げかけていく。</p> <p>時代区分などの説明をするとともに、年号索引表なども用意する。</p> <p>本資料集を自由に使用させ、各自が調べたいものが見つかるよう支援する。紹介ページの地図を利用し、見学への意欲を持たせる。</p>
追求	3	<p>各自が、本資料集などを使用して文化財を調べる。</p> <p>調べた内容を新聞などにまとめる。</p>	<p>資料集からわかること、考えたこと、疑問に思ったことをまずまとめさせ、そこから発展させていく。</p> <p>1つは自分だけが見つけた事が載せられるように言葉がけをして、見学や資料集から発展した調べ学習への意欲を掻き立て、方法などは随時助言する。</p> <p>調べ学習期間は、休日を挟むようにし、児童が自発的に見学に行ける時間を確保する。</p>
まとめ	1	<p>各自が調べたことを発表する。</p> <p>皆が発表したものから、身近に歴史を感じさせるものが数多くあることを知るとともに、友達の調べ学習の視点などから今後の自分の学習に活かせる部分に気づく。</p>	<p>発表では、必要に応じて本資料集を使用させながら行わせる。</p> <p>発表されたものを、拡大した年表に対応して掲示し、歴史の流れを感じさせる。</p> <p>これから、日本の歴史学習に入ることを知らせ、今回の発表が今後に生かせるようにまとめる。</p>

(2) 各単元導入時の活用例

各時代への導入時などに、本資料集から村内のどこに、どのような文化財があるかなどをみて、興味・関心を持たせる。また、そのような文化財や資料集内にある村と日本の歴史が対応している年表から、これから学習する時代がどのようなものかを話し合わせる。

(3) 歴史学習まとめでの活用例

歴史学習のまとめとして、地域の歴史に着目させる。歴史学習導入時と同様に、調べ学習を行うが、一通りの歴史学習を行った後なので、ここでは、大仏造りや国分寺と三原田諏訪上遺跡、戦乱の時代と各城跡、参勤交代と南雲宿本陣、日露戦争と日露戦没記念碑など、日本の歴史と村内文化財の関わりに着目できるとさらに歴史に興味を持つことができると考える。なお、これらの歴史事象と関連する文化財については、単元導入時や単元学習中にも使用できる。

4 実践の結果と考察

(1) 実践の方法

本資料集は、4月当初の歴史学習導入時に使うことが一番望ましいと考えているが、今回は実践の時期があわないため、歴史学習のまとめとして、地域の文化財、歴史を調べてみようという形で行った(6年児童37名)。資料集使用に際しては、使い方の簡単な説明をする程度で、あとは自由に使用させた。なお、授業時間での見学は行わず、休日を挟んでまとめる時間を確保し、自主的に見学する時間的余裕を作っておくこととした。観察のポイントとしては、資料集を利用することにより、楽しみながら、興味・関心を持って取り組んでいるかである。楽しみながらという点は、授業中の雰囲気や児童の声から、興味・関心は、本資料集を参考に自主的に見学に出かけたり、他の資料などにも興味を示す、本資料集掲載以外の関連する文化財や他地域の文化財にも目を向けるなどという点から見ていくこととした。

(2) 実践の結果と考察

本資料集を初めて児童に紹介したとき、「これ見たことがある」「ビデオがあるよ」「これ、何？」などと非常に興味を持って、資料集を見始めた。特に動画には興味を示し、しばらく自由にさせると、10台位のパソコンで、一斉に神輿の動画を起動させ迫力を持たせてみるなど、予想もしなかった使い方もしていた。導入としての興味付けには、非常に効果があったと思われる。自分の調べていく文化財を決める際には、「やっぱり近くのものいいや」などと言って刀川小地区の文化財から探し始める児童、「これ(日露戦没記念碑)に似ているものがあるからそれでもいい？」と言って、本資料集には掲載しなかった文化財を調べようとした児童などもいた。これらの使い方や考え方は、本資料集の目的を満たすものである。

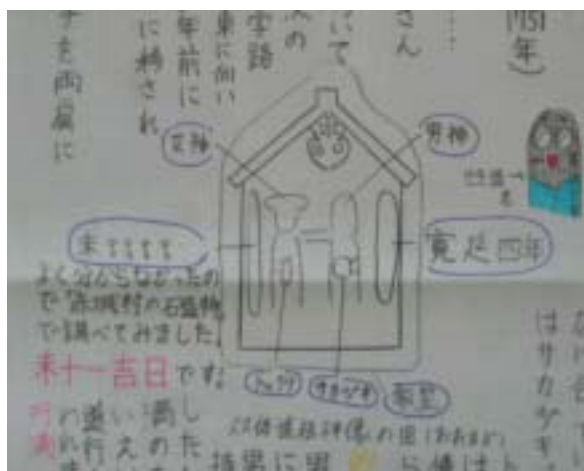


図11 児童の作品1

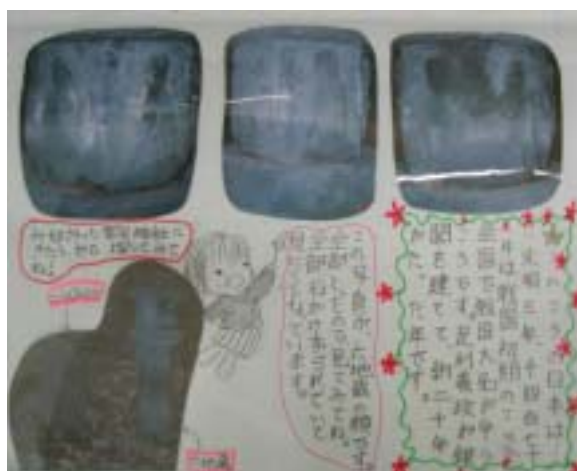


図12 児童の作品2

また、調べる過程において、児童は本資料集以外に、村誌や村で出版している文化財関係資料集、インターネット、さらに村歴史資料館や渋川市立図書館で見つけてきた資料などにもあたっていた。算額を調べた児童などは、インターネットから県内に残る他の算額を見つけていた。本資料集をもとに実際に文化財を見学に行った児童は、16名ほどであったが、児童の声に「地図をもっと詳しくして欲しい」などとあったことから、実物を見てみたいという気持ちは芽生えていたと思われる。見学に行った児童のまとめを見てみると、石造物などでは本資料集と同様に、年代が刻まれている部分などをメモしてきて、事前に用意した年号索引表と照らし合わせてみたり、読み取れなかった文字などを村発行の文化財関係資料集から調べたりしていた(図11)。また、資料集では一面しか載せていなかった六地藏石幢の顔を、六面とも写真にとってきて、まとめていた児童もいた(図12)。

村内と日本の歴史を関連づけてまとめられた児童は少なかったが、日露戦没記念碑をまとめた児童は、村内からも戦争に数多くの人が赴き、尊い命を亡くしていったことに驚きを示し、石造物を調べた児童は、戦乱による国内の乱れや江戸期の庶民の願いなどと関連して考えらえていたようである。他の児童も、関連づけまでとはいかないまでも、資料集内の年表から、自分が調べた文化財が日本の歴史の中のどこに位置するのか、どのような歴史事象が起きているときに、これらの文化財が造られてきた、起こってきたかなどは捉えられていた。歴史を身近に、現実的に感じられたことがうかがえる。

研究のまとめと今後の課題

本研究では、歴史学習に対して児童が、興味・関心を持って取り組んでいけるように、また、より現実的に歴史を感じ取れるように、身近な地域文化財の静止画や動画を取り入れた資料集を作成した。児童は今までも写真資料などは見てきているが、動画や部分的にアップにされた写真資料などに大いに興味を示していた。また、今まで何気なく見ていたものが文化財としてまとめられていることに、驚きと新鮮さを持って、新たな学習意欲を抱くことができた。さらに、本資料集をもとに実際に見学に行ったり、本資料集以外の文化財や文献資料などに興味を示したりする児童も見られた。これらの点から、今回作成した資料集が、児童の歴史学習に対する興味付けに有効であったと思われる。

また、今後の課題として、本資料集のより効果的な活用法の開発があげられる。歴史学習導入時はもちろん、単元導入(各時代の導入)、まとめなどに、児童に興味・関心を持続させつつ学習を進めていく方法やより深く歴史を感じ取れる方法を探っていきたい。さらに、児童の声などを参考に、より詳しい解説を必要とする場面や、新たなコンテンツの追加など、ソフトの改善をしていきたい。

< 参考・引用文献 >

- | | |
|------------------|-----------------|
| ・『赤城村 文化財ガイド』 | 赤城村教育委員会(1999) |
| ・『赤城村の石造物』 | 赤城村教育委員会(1985) |
| ・井上光貞ほか 『歴史散歩事典』 | 山川出版(1990) |
| ・『横野村誌』 | 横野村誌編纂委員会(1956) |